

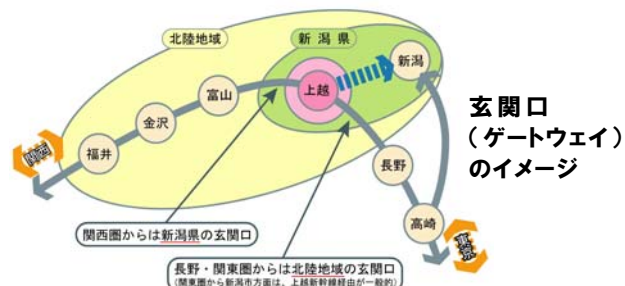
1.上越市及び駅周辺地区の状況

<p>概況</p> <ul style="list-style-type: none"> → 気象や地形がもたらす豊かな自然環境 → 広域圏との交通ネットワーク → 長い歴史に育まれた生活文化 → 定住人口増加や少子化対策の必要性 	<p>地域資源</p> <ul style="list-style-type: none"> → 全国レベルの知名度を誇る歴史(妻太古墳群、上杉謙信公) → 妙高連山をはじめとする自然環境 → 雁木に代表される雪国文化、助け合いの心 → 全国区のサクラの名所(日本三大夜桜) → 豊富な資源、先進性
--	---

2.上位計画

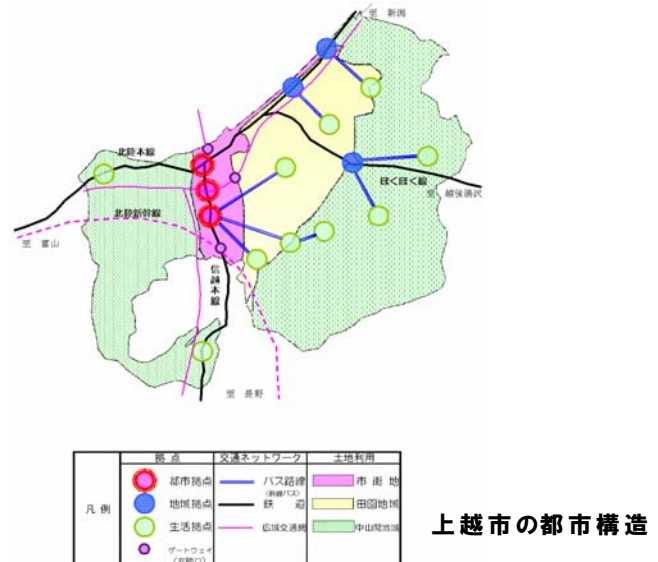
新駅ならびに新駅周辺地区の役割

- 上越市の活性化へ寄与(玄関口、交通の結節点、観光の基点)
- ホスピタリティ提供のための利便性に加えて、環境、景観に配慮
- 直江津・高田など既成市街地との連携



上位計画における方向性

- **第5次総合計画**
ゲートウェイ(玄関口): 来訪者をもてなすにふさわしい環境整備、交通施設(駅、駐車場等)の整備、良好な住環境の整備
- **上越都市計画区域マスタープラン(新潟県決定)**
新しい玄関口として、商業・業務系を中心とした土地利用
- **上越市都市計画マスタープラン**
「上越の新たな玄関口として、周辺の自然環境や景観にも配慮した、質の高いまちづくり」
・上越の新しい玄関口周辺地区の都市づくり
・質の高い新都市空間の形成
・環境共生型都市の形成



4.地域からの要請

→ **北陸新幹線(仮称)上越駅の整備に関する要望書(H16.4)**

- (仮称)上越駅の位置づけ
＜長野・大都市とのゲートウェイ＞
- テーマ
新しい時代のまちの拠点として、ひとのための駅空間づくり
～地域の総合力を高める駅をめざして～
- コンセプト
■キーワード: 歴史の風格と未来
■イメージカラー: 青(紺碧)、純白、桜色、緑、黄金(稲穂)
■コンセプト: 新時代の駅“駅機能としての広場”
- 駅からの眺望
・妙高山を望む、桜を見る

→ **北陸新幹線新駅周辺整備等に関する和田地区住民の「意識調査」に基づく要望書(H20.3)**

- ・駅周辺景観: 山並み、高い建物が制限
- ・駅前広場に必要施設: 駐輪場・駐車場、融雪施設
- ・周辺に必要な公共施設: 物産センター、警察署
- ・駅舎形態: コンクリート構造と地場産木材の暖かみのある建築
- ・まちづくりに期待すること: 住み良い住宅地
- ・地場物産の紹介: 駅中施設
- ・上越のアピール: 自然景観
- ・地域のアピール: 上越米、遺跡
- ・駅名を考えるのに重んじること: 歴史、風土

→ 歴史の風格や未来を感じさせ、かつ暖かみのある駅施設
→ 歴史・文化・自然資源の活用
→ 来街者だけでなく、住む人の視点からのまちづくり

3.土地利用方針

基本的方針(土地利用方針)

- **新幹線駅利用者の利便性確保:**
○乗り換え機能の配置/○サービス機能の配置/○高いホスピタリティ(歓待の意識)の提供
- **広域的(北信越地域)な拠点性を強化:**
○高速交通体系の拠点性を活かしたまちづくり/○拠点性を高める施設の誘致
- **中心市街地との適正な機能分担:**
○中心市街地の商業施設等と適切な機能分担/○中心市街地との連携
- **既存市街地の機能を強化:**
○脇野田地域において必要な機能(現在不足している機能)を配置
○周辺の自然豊かな環境や新幹線新駅に近接している利便性を活かした良好な住宅地整備

地区全体

- 大規模な商業施設等を規制
- 風俗営業料飲店舗等の制限

地区別

- **駅直近ゾーン(駅周辺にぎわいゾーン)**
■商業・業務施設に特化
・新幹線駅周辺に必要な施設の立地を促進
・地域住民の利便施設の立地を容認
・戸建て住宅の規制
- **住・商共存ゾーン(商住複合いきいきゾーン)**
■小規模商業・業務施設と住宅の混在
・地域住民の利便施設の立地を促進
(・新幹線駅周辺に必要な施設の立地を容認)
- **住宅ゾーン(やすらぎ住宅ゾーン)**
■住宅地に特化
・良好な住宅環境の創出、保存

ゾーニング

5.まちづくりビジョン(案)

◆新幹線新駅周辺地域の整備に関する整備目標
～上越市の新たな玄関口として、周辺の自然環境や景観にも配慮した
質の高いまちづくりの推進～

◆まちづくりビジョン(案)
百年まちづくり
～百年先も愛される 越後百会のまちづくり～

- むかえる: もてなしの空間づくり
- つたえる: 地域らしさの活用
- みちびく: 地域との連携強化
- つなげる: 百年先を見据えたまちづくり



第2回 上越市新幹線駅周辺地区まちなみ検討会議

新幹線駅周辺地区のまちづくりビジョン（案）

平成 21 年 6 月 26 日

上 越 市

～ 目 次 ～

1.上越市及び駅周辺地区の状況	1
2.上位計画	5
3.土地利用方針	8
4.地域からの要請	12
5.まちづくりビジョン（案）	13

1.上越市及び駅周辺地区の状況

上越市及び駅周辺地区の状況について以下にとりまとめる。

①概況

上越市は、新潟県の南西部に日本海に面して位置し、東京からは上越新幹線及びほくほく線で約2時間15分、高速道路で約3時間30分の位置にある。

市域面積は北陸4県の市町村では富山市に次ぐ約973km²と広く、豊かな海洋や美しい山並みと、豊かな稲作地帯を有しており、雄大で厳しい自然環境との共生のなかで豊かな風土や生活文化が築かれている。

上越市は、古くは海運交通が発達し、人や物資が行きかう地として栄え、江戸時代には主要な街道などの結節点や街道沿いには宿場町が発達し、高田と直江津はそれぞれ城下町と港町として、現在の発展の基礎となった。

現在は、北陸自動車道と上信越自動車道が接続するほか、複数の主要な鉄道やフェリー航路が市内で結節するなど、広域圏とのネットワークが整備されており、今後、平成26年度末に開業予定の北陸新幹線や、上越魚沼地域振興快速道路などの重要プロジェクトにより、陸・海の交通ネットワークが整う有数の地方都市である。

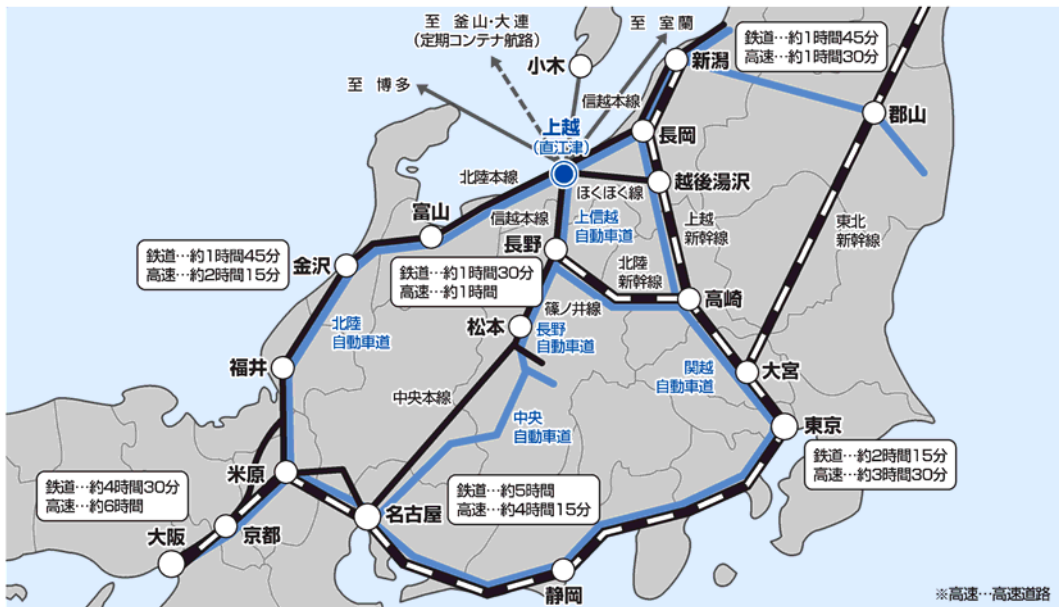


図 上越市を結節点とする広域交通ネットワーク(出典:上越市第5次総合計画(改訂版))

上越市は四季の変化がはっきりしており、冬期に降水が少なく快晴日数が少ない典型的な日本海型の気候である。冬期には、大陸からの季節風により大量の降雪があり、海岸部を除いた地域は全国有数の豪雪地帯となっている。

こうした自然環境は、古来より人々の暮らしを支えており、今日の豊かな風土や生活文化は、雄大で厳しい自然環境との共生を図り、豊穡の海や山がもたらす恩恵を受け、育まれてきた。

季節	春	夏	秋	冬
年中行事など	妙高山中腹の「はね馬」、南葉山の「種まき爺」の雪形。高田城百万人観桜会、里山の農業体験 など	長野県からも多くの海水浴客が訪れる。上越まつり、はすまつり、謙信公祭、名立区祇園祭 など	豊作を感謝する秋祭りが各地で開催。大池まつり、城下町高田花ロード、越後・謙信 SAKEまつり など	日本スキー発祥の地。スキーの日記念イベント、レルヒ祭、大島雪ほたるロード など

上越市内には山屋敷Ⅰ遺跡や籠峰遺跡をはじめ、縄文時代の遺跡が数多く存在し、新幹線駅周辺の釜蓋遺跡や吹上遺跡は、弥生時代を中心に管玉や曲玉などを生産した玉作り遺跡として全国的に知られている。

鎌倉時代に配流された親鸞の足跡は市内の至る所に残され、地域文化に大きな影響を及ぼしたと言われている。

戦国時代には、上杉家の基盤としての蔵入地や家臣団の知行地が置かれ、また数が山を中心にいくつかの支城が配置されていた。

現在は大河ドラマ放映の影響から、多くの観光客が訪れる場所となっている。



親鸞像(出典:上越市第5次総合計画(改訂版))

上越市の人口は現在 21 万人弱であるが、東京一極集中の傾向や少子化・高齢化による自然減が同時に進行する状況にあり、定住人口の減少はさらに経済の低迷や地域コミュニティの互助機能喪失などの影響も懸念される。

地域社会の将来を担う子ども達の減少は、経済・社会面での影響だけでなく、地域社会の存続そのものにも影響することから、定住人口の増加とともに重要な課題となっている。

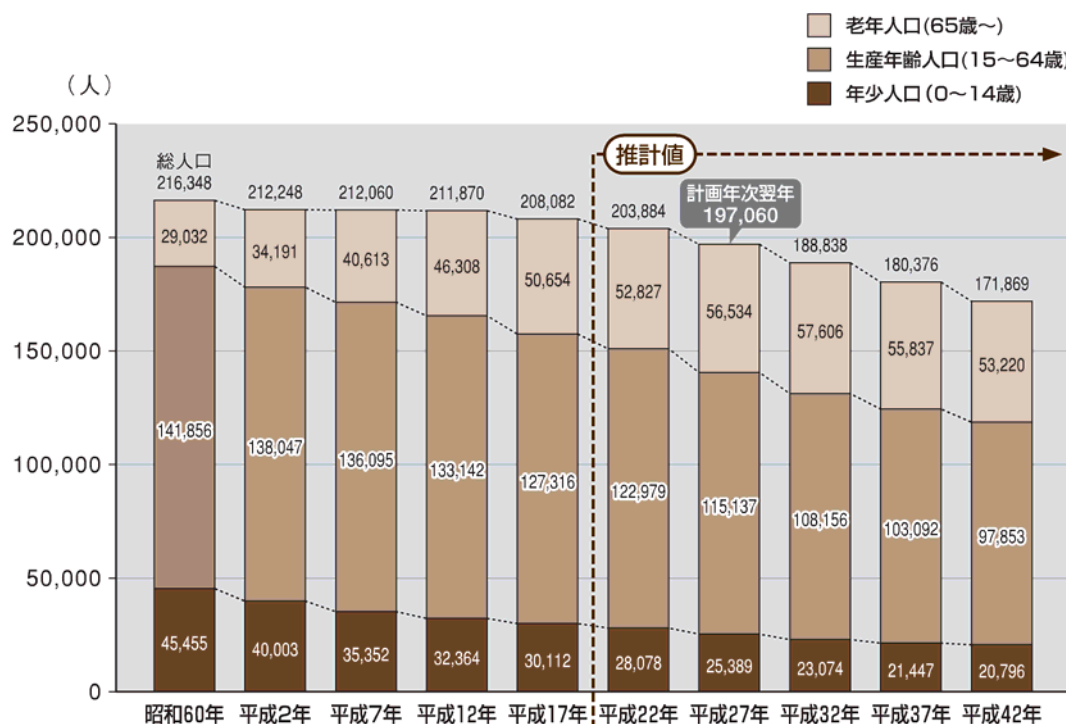


図 上越市の将来推計人口(出典:上越市第5次総合計画(改訂版))

上越市の概況から地域特性を整理すると、

- ➡ 気象や地形がもたらす豊かな自然環境
- ➡ 広域圏との交通ネットワーク
- ➡ 長い歴史に育まれた生活文化
- ➡ 定住人口増加や少子化対策の必要性

②地域資源

上越市における特徴的な資源を整理すると以下のようなものが挙げられる。

→歴史

- ・釜蓋古墳などの斐太古墳群（国指定史跡）
- ・上杉謙信公の城下町、春日山、高田城三重櫓

→地形・気象

- ・妙高連山
- ・高田平野
- ・日本海
- ・豪雪地、雪がもたらす水資源



釜蓋遺跡出土土器(出典:上越市 HP)

→文化

- ・学都（県立看護大学、新潟教育大学）
- ・雁木、町屋、朝市
- ・米や酒に代表される豊かな食、雪国・農村文化



雁木、町屋(出典:上越市 HP)



朝市(出典:上越市 HP)

→観光・祭事

- ・スキー発祥の地
- ・多くの文化施設（図書館、博物館・科学館、美術館）
- ・五智国分寺、林泉寺、高田城址、高田公園、春日山城址、小林古径邸・美術館等の観光地
- ・観桜会、上越まつり、謙信公祭、上越はすまつりなどの祭事・催事



はず見橋と妙高山(出典:上越市 HP)



えしんの里記念館(出典:記念館 HP)



旧師団長官舎(出典:上越市 HP)



第四銀行高田支店

→産業等

- ・IT 関連製造業、石油、天然ガスなどのエネルギー資源
- ・水稲収穫量及び米の農業産出額は全国第2位（H17.4時点）
- ・ステンレス、チタン
- ・バイオマスタウン構想

→市の木・花

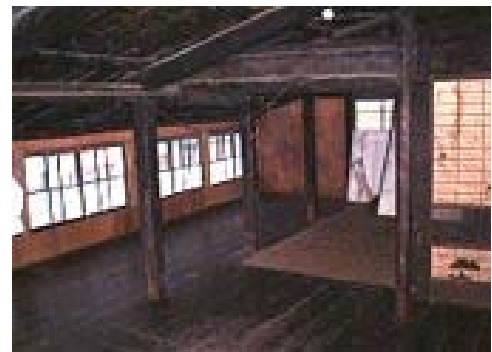
- ・市の木 : サクラ
- ・推奨する木 : マツ、イチョウ、ケヤキ、キハダ、ヤマザクラ、スギ、ウメ、エンジュ
- ・市の花 : ツバキ
- ・推奨する花 : ツツジ（サツキを含む）、シャクヤク、ハマナス、スイセン、アジサイ、ユキワリソウ、ヤマユリ、ウノハナ、アヤメ、ヤマツツジ



サクラと三重櫓(出典:上越市 HP)



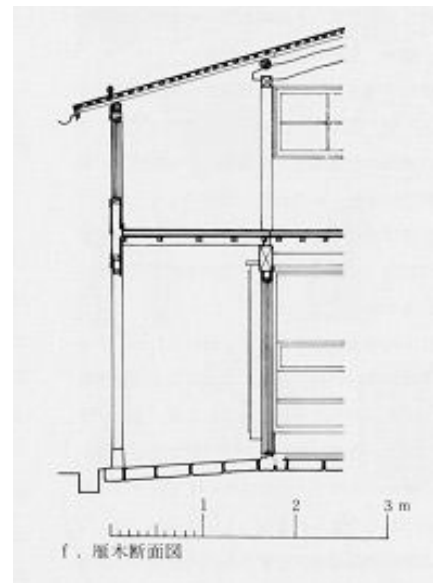
JR 高田駅、駅前広場



旧今井染物屋の外観と表二階(出典:上越市 HP)

上越市の地域資源を整理すると、

- 全国レベルの知名度を誇る歴史
（斐太古墳群、上杉謙信公）
- 妙高連山をはじめとする自然環境
- 雁木に代表される雪国文化、助け合いの心
- 全国区のサクラの名所(日本三大夜桜)
- 豊富な資源、先進性



雁木断面図(出典:上越市 HP)

2.上位計画

第5次総合計画等の上位計画について、関連する事項を以下に整理する。

①新駅ならびに新駅周辺地区の役割

■新幹線新駅は、高速かつ大量輸送モードを有し、信越線と接続することが特徴である。したがってそのインパクトを最大限活かすことは、上越市ならびに上越地域の活性化に資する。

○玄関口…………… 上越市ならびに上越地域の玄関口（長野・関東圏からは北陸地域の玄関口、関西圏からは新潟県の玄関口）である。単なる地方中間駅でなく、地方中核都市の拠点駅として格調高い整備を行う。

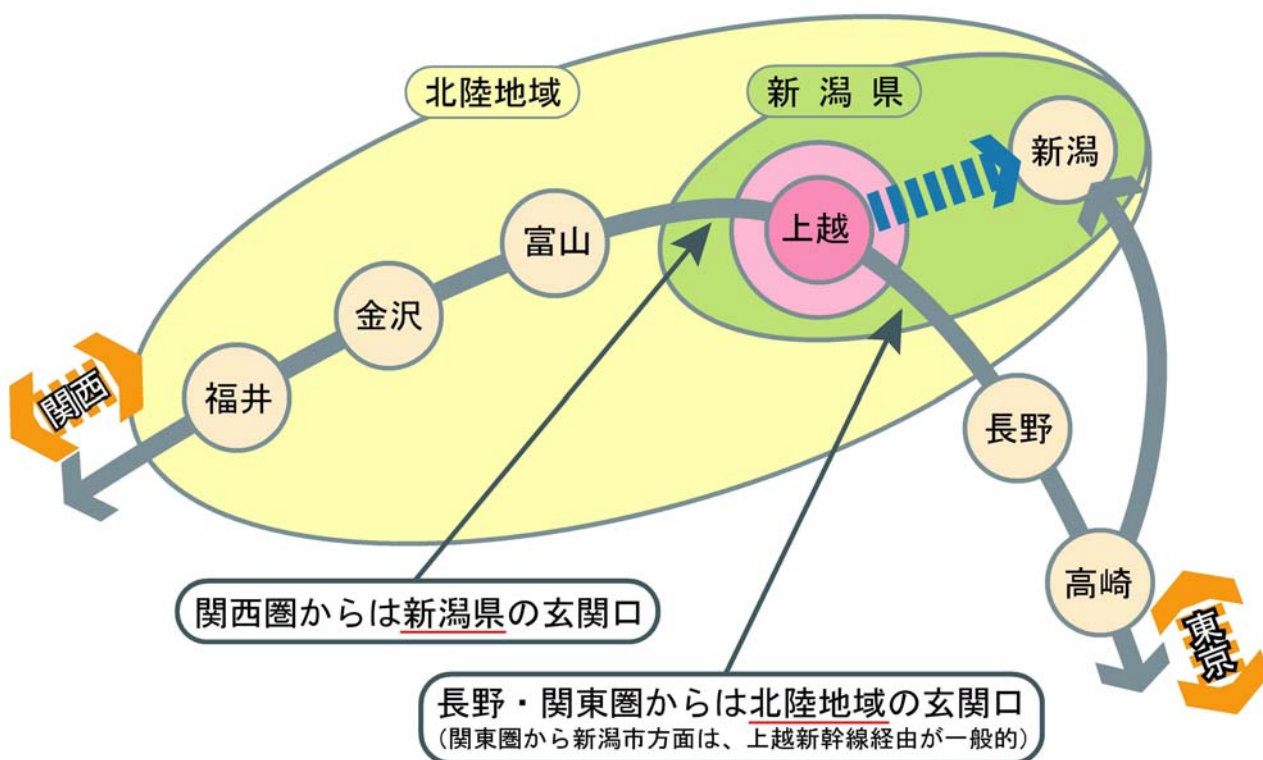
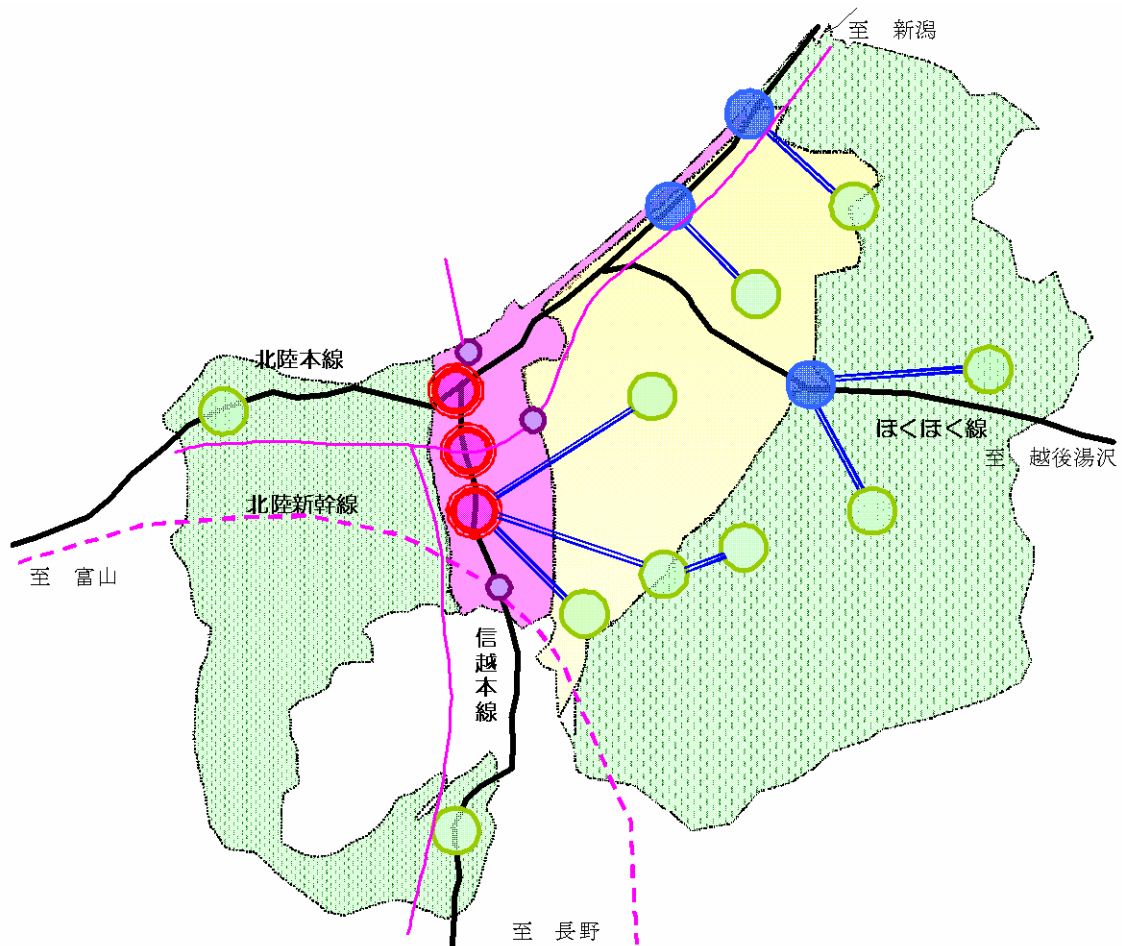


図 玄関口(ゲートウェイ)のイメージ

○交通の結節点… 上越市の既成市街地をはじめ、直江津港や地域内の各拠点とを結ぶべく、信越本線や道路とのネットワークを図り、交通の接続抵抗を極力抑えていく。

○観光の基点… 佐渡を含む地域内の主要観光地に向かう基点となるべく、観光交通の結節性を高め、観光のサービス機能の充実を図る

- 新駅周辺地区は、上越地域の玄関口であることから来街者に対して極めて高いホスピタリティ（歓待の意識）を提供すべく、利便性にくわえ環境や景観にも配慮する。
- 新駅周辺地区の商業・サービス機能は、直江津や高田など中心市街地の商業機能を圧迫するような広域集客の性格を有するものであってはならない。逆に連携を図ることで既成市街地の活性化を図る。



	拠 点	交通ネットワーク	土地利用
凡 例	都市拠点	バス路線 (幹線バス)	市 街 地
	地域拠点	鉄 道	田園地域
	生活拠点	広域交通網	中山間地域
	ゲートウェイ (玄関口)		

図 上越市の都市構造

②上位計画における当地区の方向性

→第5次総合計画

◆4章 土地利用構想

◎ゲートウェイ(玄関口)として新幹線新駅周辺地区に位置づけている。

- ・北陸新幹線開業後は、市の新たな玄関口となることから、観光や業務等を目的とした**来訪者をもてなすにふさわしい環境整備**とともに、都市拠点をはじめ市内との円滑な移動を実現する**交通施設(駅、駐車場等)の整備**を行います。

また、駅周辺の住宅地については、隣接する既存の住宅地との調和に配慮しながら**良好な住環境の整備**を行います。

→上越都市計画区域マスタープラン(新潟県決定)

◆Ⅲ 主要な都市計画の決定の方針

◎市街地の土地利用の方針

- ・脇野田地区の新幹線新駅周辺地区は、本都市計画区域への**新しい玄関口**としての恵まれた交通利便性を活かし、土地区画整理事業により**商業・業務系を中心とした土地利用を図る**。

→上越市都市計画マスタープラン

◆2章 めざすべき都市像 — (将来都市構造)

◎セントラルゾーン

- ・海と湊のまちづくり地区(直江津地区)、城と桜のまちづくり地区(高田地区)等との連携による都市核の形成
- ・幹線道路網の形成による交通機能の強化
- ・近隣商業、行政、福祉等市民の日常生活の様々なサービス機能の充実

◆4章 地域別構想

◎新幹線新駅周辺地域

○整備目標

「**上越の新たな玄関口として、周辺の自然環境や景観にも配慮した、質の高いまちづくり**」

○都市整備方針

- ・上越の**新しい玄関口周辺地区の都市づくり**
- ・**質の高い新都市空間**の形成
- ・**環境共生型都市**の形成

3.土地利用方針

本地区の土地利用の前提となる、「新幹線新駅周辺地区の土地利用方針（案）」より土地利用方針について以下にとりまとめる。

1)土地利用方針策定にあたり考慮すべき事項

先に整理した上位計画における役割等より考えられる、地域の土地利用方針の策定において考慮すべき事項を以下に整理する。

■第5次総合計画

- 都市拠点ではなくゲートウェイ（玄関口）に位置づけている。

→大規模集客施設などの排除

- 玄関口として、「来訪者をもてなすにふさわしい環境整備」、「交通施設の整備」

→新幹線利用者の利便施設の立地

- 良好な住環境の整備

→建物用途の混在を避ける。建物用途や形態などのコントロール

■上越都市計画区域マスタープラン

- 恵まれた交通利便性を活かし、商業・業務系を中心とした土地利用

→広域的な拠点性の強化

■上越市都市計画マスタープラン

- 既存市街地との連携による都市核の形成（セントラルゾーンの一角を形成）

→市街化の促進

- 交通機能の強化

→乗り換え機能の充実

- 日常サービス機能の充実

→地域住民の利便施設の立地

- 質の高いまちづくり、質の高い新都市空間

→建物用途の混在を避け、形態などをコントロール

- 環境共生型都市

→環境に配慮した整備、周辺環境との調和

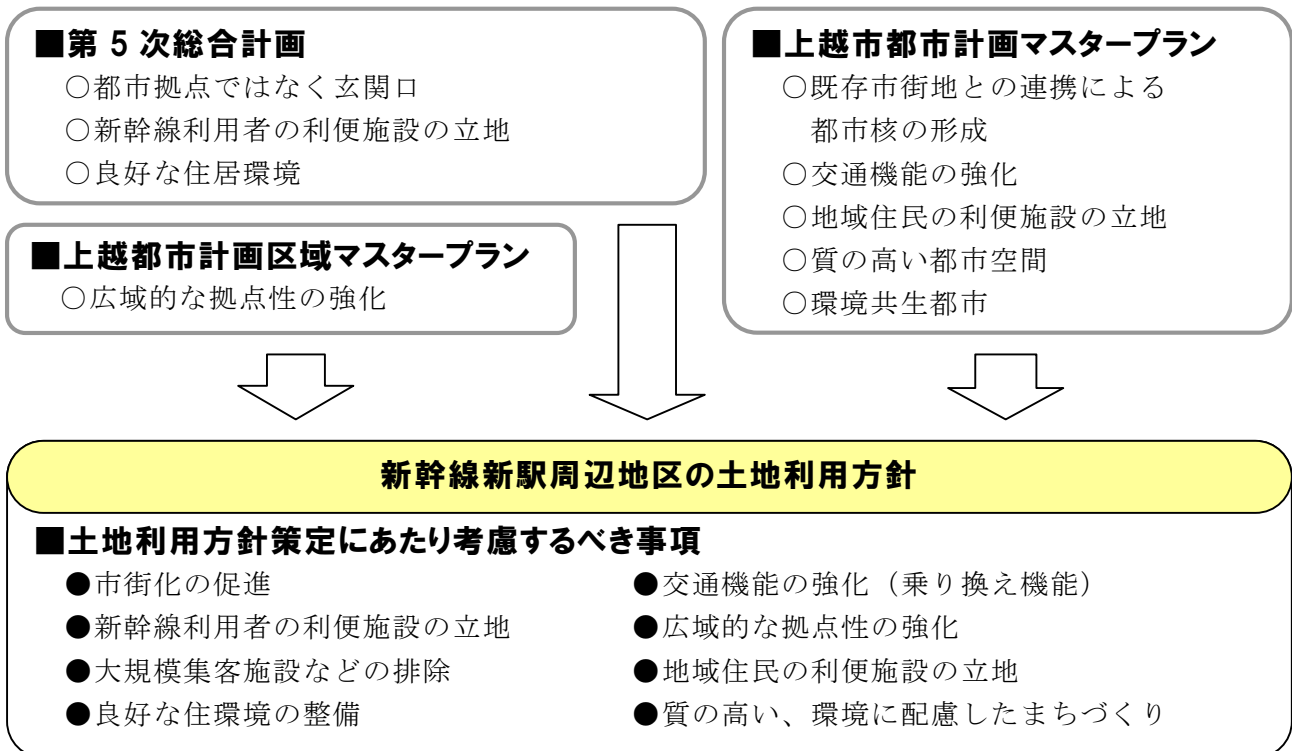


図 土地利用方針策定にあたり考慮すべき事項(まとめ)

2) 土地利用方針

前頁において整理した土地利用方針策定にあたり考慮すべき事項を踏まえ、本地区における土地利用方針を以下のように設定する。

- **新幹線駅利用者の利便性確保**
- **広域的(北信越地域)な拠点性を強化**
- **中心市街地との適正な機能分担**
- **既存市街地の機能を強化**

3) 基本的な考え方

各方針における基本的考え方は以下のとおりである。

→ **新幹線駅利用者の利便性確保(旅客者サービス機能)**

- スムーズな交通手段の変更ができる交通施設(駅、駅前広場等)の整備や新幹線利用者のためのパーク&ライド施設など、**乗り換え機能を配置**する。
- 交通結節点として、観光来街者への情報発信施設(観光案内所など)や宿泊対応施設、駅利用者への物販飲食施設など、**サービス機能を配置**する。
- 来街者に対して**高いホスピタリティ(款待の意識)**を提供すべく、周辺の自然環境や上越らしい景観にも配慮したまちづくりを推進する。

→ **広域的(北信越地域)な拠点性の強化(広域結節拠点機能)**

- 以前より上越市は、高速道路網において北信越地域の重要な結節点に位置している。
- また、新幹線の開業により上越と富山・金沢との時間距離が短縮され、鉄道網の面からも結節点としての重要性が高まり、北信越地域における**高速交通体系の拠点としての位置づけ**が確立する。
- よって、その優位性を活かし、北信越地域において**拠点性を高める施設の誘致**を進め、**交流人口を増加**させる。

→ **中心市街地との適正な機能分担**

- 本地区においては、駅の利用者並びに当該地区の住民に対する利便を増進するため、各種の施設を整備するが、これらの施設は、**中心市街地の商業施設等と適正な機能分担**を図る。
- また、在来線などの交通機関を活用し、中心市街地において**既に立地しているさまざまな施設との連携**を図る。

→ **既存市街地の機能を強化**

- 周辺は市街地(脇野田地域)を形成していることから、本地区もその市街地の一角を形成することとなる。
- 在来線の脇野田駅は脇野田地域にとって重要な公共交通を担っていることから、脇野田地域にとって使いやすい駅となることが重要。
- 新幹線駅の設置により当地域の道路が整備され、地域内環境が変化する。
- よって、脇野田地域において必要な機能(現在不足している機能)を駅周辺地区に配置する。
- また、周辺の自然豊かな環境や新幹線新駅に近接した利便性を活かした良好な住宅地の整備を行う。

4) ゾーニングと地区別の土地利用方針

① ゾーニング

→ 駅直近ゾーン(駅周辺にぎわいゾーン)

- 駅前広場を中心とした駅東口、西口に面する北側エリア
- 駅への近接性を活かして、商業、業務、サービスをはじめ、多様な施設を誘導する地区の顔となるゾーン

→ 住・商共存ゾーン(商住複合いきいきゾーン)

- 駅直近ゾーンと住宅ゾーンの間位置するエリア
- 日常生活に必要な商業・サービス施設と低中層の都市型住宅が適度に混在し、駅周辺のにぎわいと良好な住宅地の中間的な性格を有するゾーン

→ 住宅ゾーン(やすらぎ住宅ゾーン)

- 当地区の南側に広がる田園地帯に接する駅からやや離れたエリア
- 周辺に広がる自然環境と調和のとれた良好な住宅地を提供するゾーン

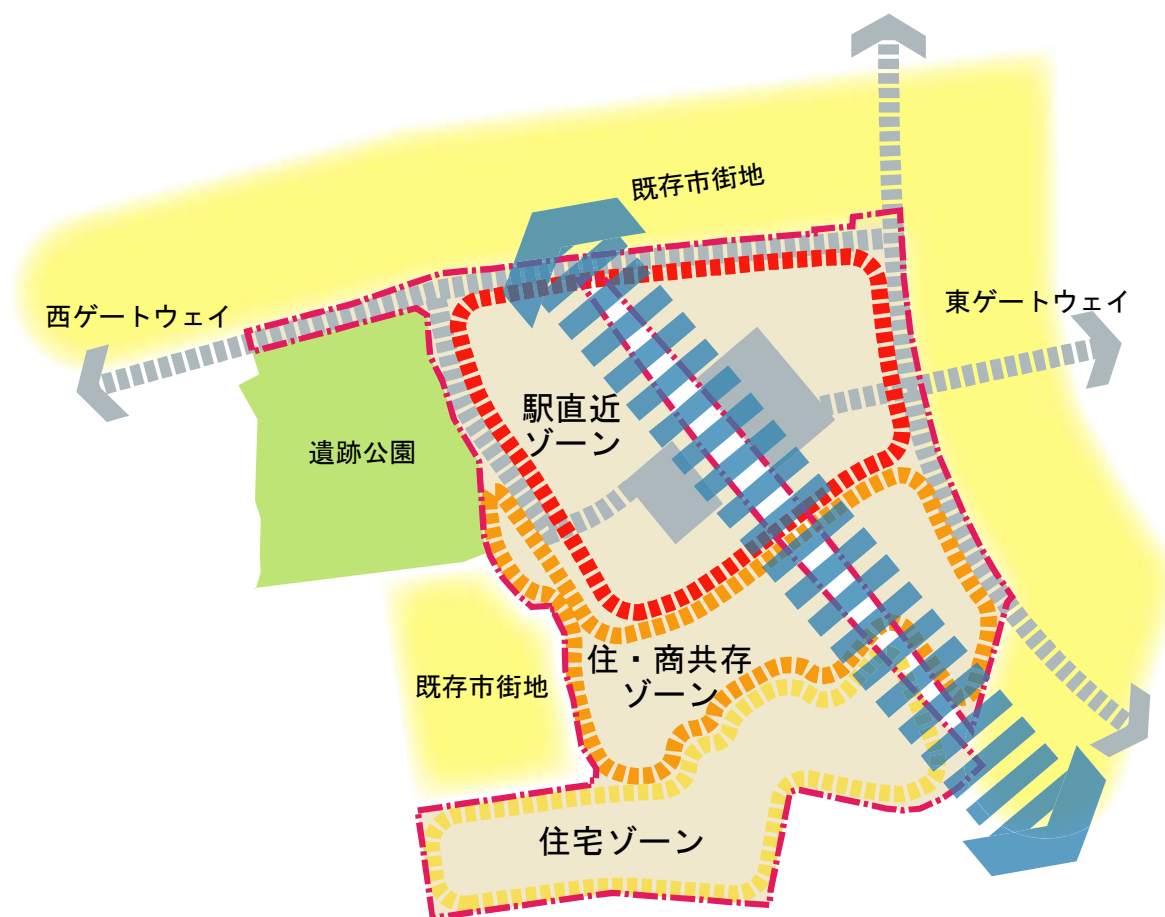


図 ゾーニング

②地区別の土地利用方針

→地区全体

■風俗営業料飲店舗等の制限

- ・当地区は、新幹線駅利用者の利便性や既存市街地の機能強化等を図りながらも、上越市の新しい玄関口として、質の高いまちづくりが求められることから、商業地域であっても、一定の遊技施設や風俗系店舗に制限を設ける。

→各地区(ゾーン)

○駅直近ゾーン

■商業・業務施設に特化（駅の利便機能、広域拠点機能、地域サービス機能）

- ・新幹線駅周辺に必要な施設の立地を促進
- ・地域住民の利便施設の立地を容認
- ・大規模な商業施設を規制
- ・戸建て住宅の規制

○住・商共存ゾーン

■小規模商業・業務施設と住宅の混在

- ・地域住民の利便施設の立地を促進
（・新幹線駅周辺に必要な施設の立地を容認）
- ・大規模な商業施設を規制

○住宅ゾーン

■住宅地に特化

- ・良好な住宅環境の創出、保存

③想定される土地利用

○駅直近ゾーン

- ・駅利用者の利便施設・・・（例）観光案内所、物産販売所（みやげ物屋）、ビジネスホテル、飲食店、レンタカー、駐車場など
- ・広域拠点（北信越地域における）施設・・・
（例）コンベンション施設、（各種）北陸支店、北陸営業所など
- ・地域住民のサービス施設・・・
（例）スーパーマーケット、ホームセンター、銀行、コンビニ、町内会館、福祉施設、保育園など

○住・商共存ゾーン

- ・地域業務施設・・・（例）地元企業の事務所など
- ・地域住民のサービス施設・・・
（例）飲食店、コンビニ、床屋、クリーニング屋、弁当屋、スーパーマーケット、ホームセンター、福祉施設など
- ・居住施設・・・（例）アパート、戸建て住宅、マンション、社宅など

○住宅ゾーン

- ・居住施設・・・（例）戸建て住宅など

5.まちづくりビジョン（案）

本まちなみ形成構想は、土地区画整理事業により創出される新しいまちの価値向上を目指すための方向性を示すものであり、景観面も含めた地域全体の価値向上を視野に入れる必要があると考えられる。

このような観点から、本地域の価値向上に向けたまちづくりの方向性として、まちづくりビジョンを設定する。なお、新幹線新駅周辺地域における整備目標は、前頁に整理したとおりであり、まちづくりビジョン（案）は、この整備目標をベースに設定する。

◆新幹線新駅周辺地域の整備に関する整備目標

～上越市の新たな玄関口として、周辺の自然環境や景観にも配慮した

質の高いまちづくりの推進～

◆まちづくりビジョン(案)

百年まちづくり

～百年先も愛される ^{えちごひやくえ}越後百会^{*}のまちづくり～

(※一期一会のこころもちでもてなし、上越のこの地に百年先も住み続けたい、何度も訪れたいまちづくり)

→ むかえる：もてなしの空間づくり

本地区は、広域圏からの来訪者を迎える場である。

玄関口・『ゲートウェイ』として、駅利用者が電車の待ち合わせ時間などにまちに出かけたくなるような、来訪者をやさしく迎え入れるホスピタリティあふれるまちの形成を目指す。

→ つたえる：地域らしさの活用

本地区は、上越の魅力を深く知ってもらうための場、上越らしさを伝える場である。

上越市が有する多くの魅力を来訪者にアピールし、そして体験できるような、地域らしさを醸し出すまちの形成を目指す。

→ みちびく：地域との連携強化

本地区は、来訪者を広く地域へ導く場である。

新幹線新駅の整備効果を広く地域に波及させ、地域が等しく効果を楽しむことができるよう、ハード・ソフト双方の観点から新しいまちと既存市街地との機能・動線等の連携強化を図る。

→ つなげる：百年先を見据えたまちづくり

本地区は、地域の魅力を次代へと繋げる場である。

100年後でも色褪せない“魅力”や“もてなしの機能”を持続できるような、次代へと繋がる「人」と「仕組み」を構築し、100年続いて地域の文化となるようなまちなみの形成を目指す。